

経営比較分析表（平成30年度決算）

京都府京丹波町 国保京丹波町病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	8	-	-	救へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
14,246	4,436	第2種該当	13:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
47	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	47
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
47	-	47

グラフ凡例
 ■ 当該病院値（当該値）
 - 類似病院平均値（平均値）
 【】 平成30年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

国保京丹波町病院は、昭和30年5月の開設以来、開業医のいないこの地域のかかりつけ医的な役割を担って、救急対応や病床機能、公衆衛生活動を提供し地域医療を守り続けている。また、在宅医療も推進し、医療・介護・保健・福祉を継続的かつ一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点病院の役割を担い、地域住民の暮らしを守っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院、外来収益共に昨年度の水準を大幅に下回り、経常収支比率が90%を下回るという極めて憂慮すべき結果となった。主因は常勤医師1名の退職で入院患者の定着がままならず病床利用率が45.8%と極度に悪化し、入院収益が大幅に落ち込んだことと、同じ要因で補充した非常勤医師への資金の支出が嵩んだことにある。その結果として、職員給与対業収比率が対前年18ポイントプラスの108%を超えてしまったことは異常と言うほかなく、改善は論を待たない。また、昨年度も問題視した患者一人一日当たりの入院収益も改善には至らず2万3千円台に終わったが、職員体制を立て直し検査等必要な医療を適切に提供し、数字の改善にも繋げなければならない。この結果を真摯に受け止め、危機感を意識し、一刻の猶予もなく入院患者の増加と人件費の削減に取り組み、各指標の改善を目指していかねばならない。

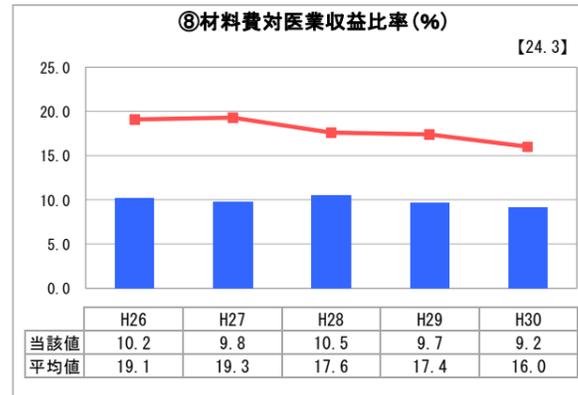
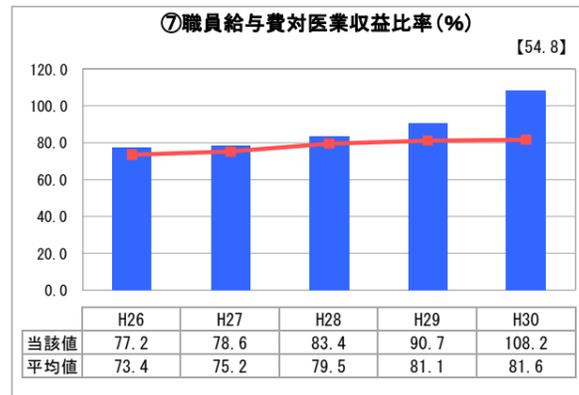
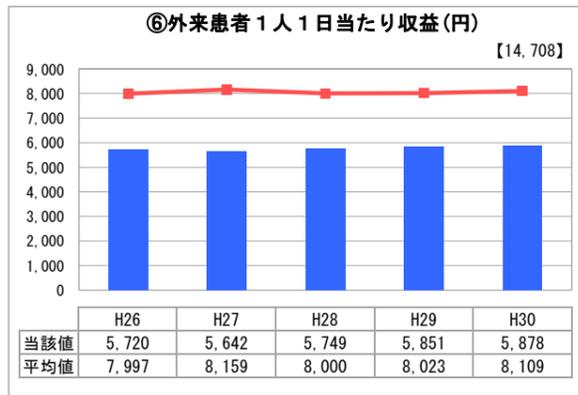
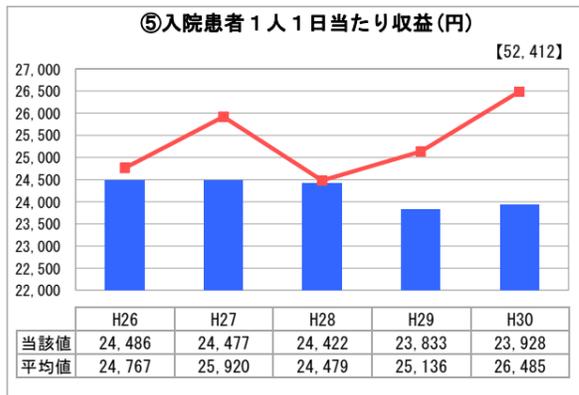
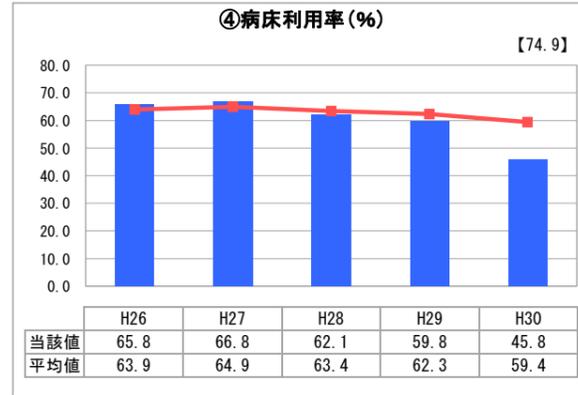
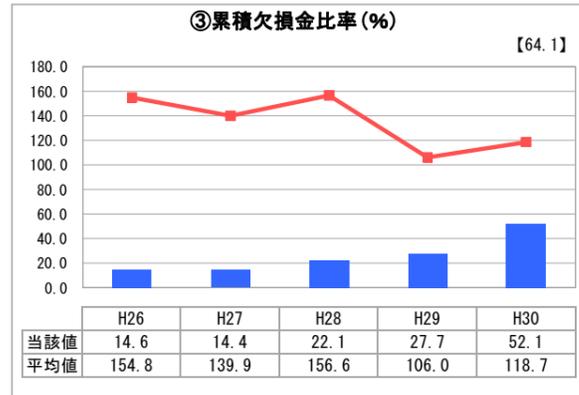
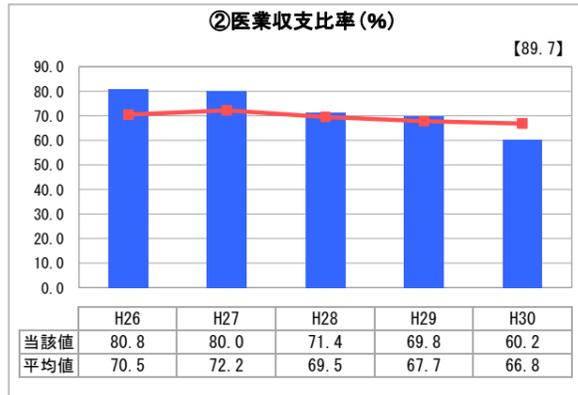
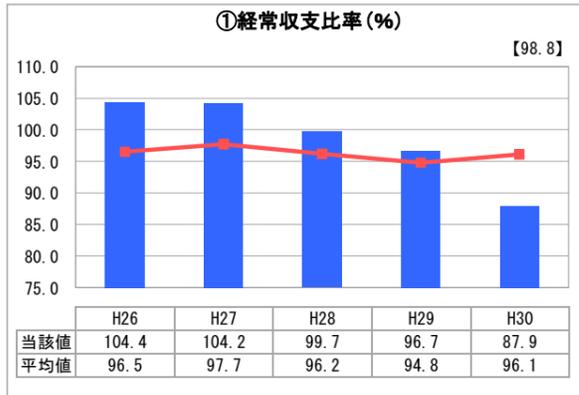
2. 老朽化の状況について

取得価格の全体に占める割合の大きい国保京丹波町病院の建物は平成16年に新築した鉄筋コンクリート造のため、耐用年数が長く有形固定資産減価償却率は低い水準である。1床当たり有形固定資産の額は年々増加しているが、計画的に更新するためであり、結果として平成30年度は平均値とも近似値となっている。47床の小規模な施設のため、固定資産の更新を行うと影響が大きく出やすいと考えている。

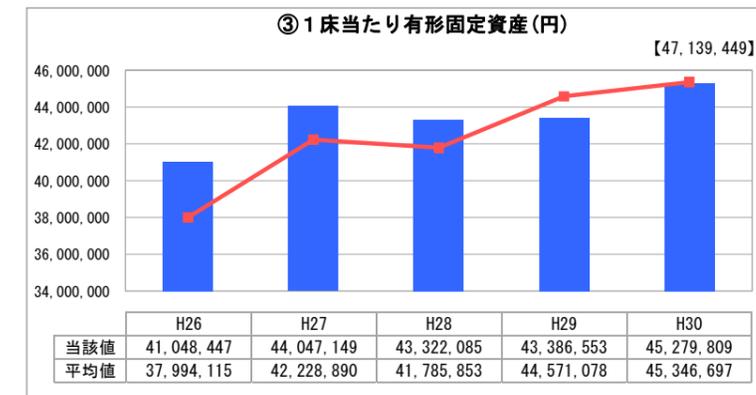
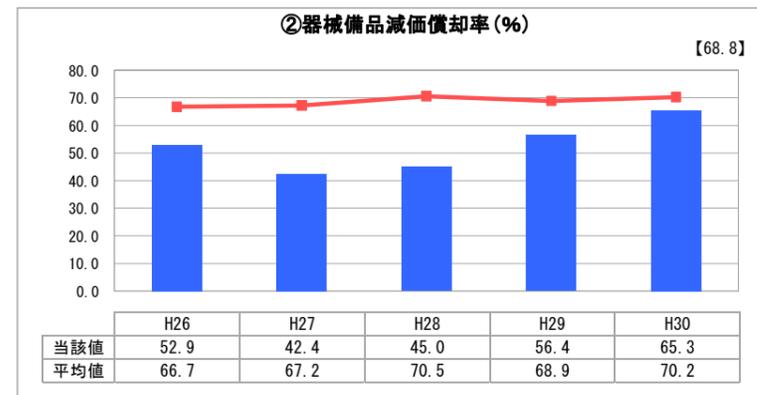
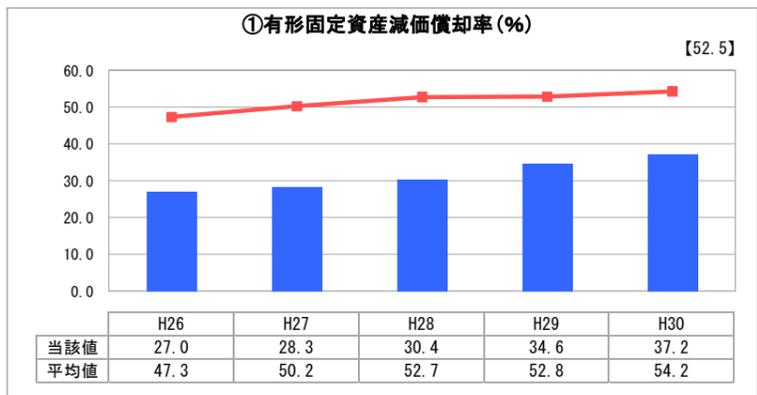
全体総括

医師確保に対する不断の努力にもかかわらず、常勤医師の確保に難航し、常勤医師1名の定年退職をカバーできなかったため、改善を意欲した過去2年の成績を大幅に下回る極めて残念な結果となった。特に、入院患者の減少が著しかったが、これは日替わり、月替わりの非常勤医師の雇用により一時的な体制確保はしたものの、かかりつけ医にはなりきれず患者の定着に繋がらなかったためである。反面、医師賞金の増加に拍車がかかり、業収収支比率を大幅に悪化させることになった。引き続き、医師確保に努力し、経費節減に努めることで、新公立病院改革プランに沿った健全経営に危機意識をもって取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。